



ふくおか [Good] 農業人100
 主な農産物 / 博多万能ねぎ

鶴田 博之さん (25歳) (営農地 / 朝倉市長淵)

緑豊かな風景に魅せられて、夢を実現!

《就農のきっかけ》

大好きな風景に囲まれて農業がしたい

「子どもの頃、母方の実家がある朝倉市に遊びに来ては、自然豊かな緑の風景に心が安らいでいました。その風景が大好きでした。」それが、きっかけと微笑む鶴田さん。北九州市で育ち、農家ではなかったのですが、高校在学中には、「農業をしよう」と固く決意したそうです。「就農」を現実のものとするため、県農業大学校へ進学し、基礎知識を学びました。卒業後、朝倉市の生産農家で半年間の研修を受けながら、JAやネギ部会、普及指導センターの支援の下、資金、ハウス、機材などの準備を進めました。部会にはしっかりした支援体制があったし、研修先の農家さんからネギ経営の魅力を伝えられ、青ネギ栽培を決意。子どもの頃からの夢だった農業が職業となったのです。

《これまでの過程》

周囲の協力もあり、栽培面積を拡大

「博多万能ねぎ」の種子を播き、待望の初出荷を迎えたとき「ネギを収穫しながら、涙がいつまでも止まりませんでした。」と鶴田さん。幼少の頃に心に刻まれた風景と就農までの苦労、そしてそれを支えてくれた多くの人々への感謝の思いが駆け巡ったといいます。

やる気を持って頑張っていると、周りの農家の方々もいろんな協力をしてくれます。「途中であきらめず、最後までやり通すことが一番大事。」と感じたそうです。

今では栽培を始めて数年たち、作業にも慣れるにつれ、15a、45a、62aと栽培面積を拡大してきました。夏場は葉先枯れや害虫対策をしなければならないなど、時期ごとの注意点や対策もやっとわかってきて、年間出荷量では部会平均に近づいてきましたが、まだまだ経営安定とはいきません。



プロフィール

- 家族構成 / 母、本人
- 営農年数 / 約4年
- 従業員数 / 調整作業7名
- 耕作(経営)面積 / 6.2a
- 販路 / JA共販

《これからの展望》

こまめな管理で収量の向上と経営安定

鶴田さんは、「これから、収量を向上させ経営を安定させたい。」と強く語ってくれました。収量を向上させるための手段としては、たとえば害虫対策の徹底です。害虫が発生し、害虫が食べた後が見つかれば、調整作業でその部分を取り除かないといけません。収量は少なくなるし、手間もかかってしまう。そうならないためには早期のこまめな管理が大切だと感じているそうです。

また、ネギの場合は、調整作業に多くの時間を費やします。通常の栽培管理は母と二人で行い、調整作業は7人のパートさんをお願いしています。収量が向上すれば、調整作業の時間が増加するので、調整作業をするパートの確保が課題だそうです。

栽培面積は確保できているので、「今後は、ハウスごとの作業計画を立て、無駄を省いて経営を安定させたい。」と考えています。



Good 成功のためのポイント

「部会や関係機関の支援体制を確立していただけたこと」と「地域に母の実家や親戚がいて、集落に早くとけ込めたこと」が大きなポイント。周囲の協力をきちんと受け止めることが成功の秘訣だと思う。